

平成 21 年 4 月 2 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006年度～2009年度

課題番号：18320064

研究課題名（和文） 琉球諸方言要地アクセントの緊急調査研究

研究課題名（英文） Urgent Research on the Accents of Major Ryukyuan Dialects

研究代表者

氏名：上野 善道

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：50011375

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：アクセント，与那国方言，徳之島浅間方言，沖永良部島皆川方言，伊吹島方言，青森市方言，音節の軽重

1. 研究計画の概要

本調査研究は、次の3点をその目的とする。
(1) 消滅の危機に瀕している日本語諸方言、とりわけその危険度の高い琉球諸方言のアクセントを実地調査し、その体系と仕組みを明らかにする。(2) 琉球アクセント祖体系ならびに日本語アクセント祖体系を考える基礎を固める。(3) 貴重な音声を録音保存し、できるだけ多くの資料を残す。

2. 研究の進捗状況

(1)については、南琉球の与那国方言を中心に記述調査を行なっている。その結果、40年前との間にアクセント変化が起こり、音節の軽重が関与する興味深いアクセント体系が出来上がっていることを明らかにした。2つの音調型が、単独形では区別がなくなり、通常の(軽音節の)付属語を付けても区別がなく、重音節終わりの付属語を付けるか、自立語を続けた場合にのみ区別が現われる体系は、他の日本語諸方言には知られていない現象である。その弁別特徴は「下降」であると解釈されるが、同時にそこに下降の遅れが生じ、あたかも「上昇」であるかのごとき様相を呈してきているのも興味深い。

また、用言については、基礎的動詞300語の終止形のみならず、過去形と否定形のアクセントも調べ、最も基礎的な動詞50語については、それぞれ19項目ずつの活用形のアクセントを明らかにした。これも従来、報告されていなかった点である。

奄美方言では、徳之島浅間方言および沖永良部島皆川方言の記述を継続的に発表している。浅間方言では、アルファベット頭文字語など、これまで対象とされて来なかった領域のアクセントを調べた。修飾語構造において半下降が生ずるケースが種々あることもはじめて明らかにした。

皆川方言では、地元の方言集の全語彙を調査し、それを音節構造別に整理した資料集を発表し続けている。

(2)と(3)については、上記の諸方言に加えて、本土方言として、伊吹島方言の記述、青森市方言の記録の公刊も続けている。また、調査はすべて録音している。

3. 現在までの達成度

(1)の与那国方言は、当初の計画以上に進展している。

ただし、南琉球の他の方言に関しては、遅れている、と言わざるを得ない。良い話者探しに苦労し、いまだごく概略的な調査にとどまっている。

(2)および(3)については、おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1)および(3)について。

遅れている南琉球の他の地点の調査も、一定レベルまで進める。

ただし、与那国方言は非常に協力的な話者が90歳を迎え、この機会を逃すと今後調査研究が不可能になると懸念されるので、南琉

球の全地点に満遍なく調査時間を割くよりも、できる限り与那国方言の良質な詳しい記述を進めることに時間を注ぎたい。そして、本年度も国際会議で与那国方言の成果を発表する(すでにギリシアの学会で採択済み)。

これまで続けてきた奄美方言や本土方言の方言資料の公刊もこのまま引き続き行なう。

(2)について。

9月にパリで開かれる国際会議に招待されており、そこで祖体系の成果発表を行なう。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

上野善道(2006.08)「アルファベット頭文字語のアクセント」『城生伯太郎博士還暦記念論集』125-135

上野善道(2006.09)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(4)」『アジア・アフリカの言語と言語学』1: 129-157

上野善道(2006.09)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(5)」『東京大学言語学論集』25: 249-297

UWANO, Zendo (2006.11) "Accentual Changes in Progress: The Ibuki-jima Dialect", in Guido Oebel (ed.) *Japanische Beitrage zu Kultur und Sprache: Studia Iaponica Wolfgango Viereck emerito oblata*, Lincom: 169-176

UWANO, Zendo (2006) "The Accent of the Kuroshima-Oosato Dialect of Japanese", in Agris Timuska (ed.) *Proceedings of the 4th International Congress of Dialectologists and Geolinguists*, Riga, University of Latvia: 482-489

上野善道(2007.03)「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則 資料編(2)」『日本海域研究』38: 67-81

上野善道(2007.03)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(6)」『琉球の方言』31: 1-38

UWANO, Zendo (2007.06) "Accent and Meaning" in Y. Ikegami, V. Eschbach-Szabo, A. Wlodarczyk (eds.) *Japanese Linguistics: European Chapter*, Kurozio Publishers: 297-309

上野善道(2007.7)「方言のアクセント研究はどうなっているか」『国文学解釈と鑑賞』(特集:方言と方言研究の現況)72/7: 39-46

上野善道(2007.09)「録音資料に基づくアクセント調査:香川県伊吹島方言の場合」『東京大学言語学論集』26: 115-183

UWANO, Zendo (2007) "Two-pattern accent systems in three Japanese dialects", in T. Riad & C. Gussenhoven (eds.) *Tones and Tunes Volume 1: Typological Studies in Word and Sentence Prosody*, Mouton de Gruyter, Berlin & New York: 147-165.

UWANO, Zendo (2007.11) "The Interpretation of Accent in Standard Japanese", in P. Calvetti & S. de Maio (eds.) *Proceedings of the Second Conference on the Japanese Linguistics and Language Teaching*, Naples. March 20th-22nd, 2002: 481-490

上野善道(2008.03)「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則 資料編(3)」『日本海域研究』39: 101-116

上野善道(2008.03)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(7)」『琉球の方言』32: 1-40

上野善道(2008.10)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(8)」『東京大学言語学論集』27: 267-308

上野善道(2009.03)「青森市方言後部2拍複合名詞のアクセント規則 資料編(4)」『日本海域研究』40: 155-168

上野善道(2009.03)「沖永良部島方言語彙のアクセント資料(9)」『琉球の方言』33: 99-123

[学会発表](計4件)

UWANO, Zendo (2006.09.05) "History of the Two-Pattern Accent Systems of Southwest Kyushu Japanese", 5th Congress of Dialectology and Geolinguistics, Universidade do Minho, Braga, Portugal

上野善道(2007.11.10)「日本語のアクセントと音節・モーラ」日本英語学会シンポジウム「日本語の音節構造とプロソディー:方法論の違いから何が見えてくるか」(田中伸一, 原口庄輔, 藤村靖, 窪園晴夫)名古屋大学35

UWANO, Zendo (2008.08.06) "The Accent System of the Yonaguni Dialect of Japanese", 13th Methods Conference, University of Leeds, Great Britain

UWANO, Zendo (2008.9.21) "On the Phrase-initial Rise in the Accent of Tokyo Japanese", 12th International Conference of the EAJLS, Lecce, Italy